

【基調講演の概要】

《演 題》 『エコツーリズムと地域活性化』

《基調講演者》 株式会社アイロード代表取締役、地域振興誌「みちくさ」編集長

エコツーリズムカンパニー アイロード・プラス代表取締役 福永 栄子 氏

《概 要》

- 地域の魅力、それは地域固有の文化であり、地域により多様性があるがゆえに貴重で、価値あるもの。「エコツーリズム」とは、地域資源の多様性を守るためには、来る人々を拒絶するのではなく、むしろ来ていただき地域を学んでいただく「学びの旅」という考え方で、経済的に得たお金は地域保全に役立てていくのがポイント。2つ目のポイントは、地域のファンを作り、関係人口として経済的に応援してくれる層を作ること。学んでいただいた後、ファンを作り、経済的にも潤い、地域保全に役立てていく考え方である。同時にこうしたエコツーリズムの考え方を、自分の地域でも広め、実践していく人を作ること。エコツーリズムは、まさに人づくりの「旅学」。
- このように地域コミュニティを存続させ、貴重な価値観を守るためには、価値を伝え、発信することが必要。エコツアーの案内人はガイドといわず、「**Interpreter**」と呼ばれる（地域の価値を伝える伝道師）という。言葉だけでなく交流体験でも伝えていく。交流体験を実践したり、紹介する人材を育てることが大事。訪れる人も迎え入れる人も学ぶことができる体験交流こそが「エコツーリズム」。観光地を作るのではなく、豊かなコミュニティを作り、地域の人の暮らしにこそ、初めてその地域の人と同じ気持ちになれる。
- 地域の魅力の何を後世に残し、次世代に引き継いでいくのかを地域は決めないといけない。これからの観光交流には、「観光地づくり」は必要ない。「コミュニティ」や「自然」「自然に寄り添う暮らし」を体験させる方がよい。地域の人になったつもりで旅をする、暮らすように旅をするということ。観光客用に作られたものではなく、地域の人に関わっている暮らしの中にこそ魅力がある。身近な暮らしと自然の中にこそ貴重な体験がある。



【基調講演の様様】

- 「エコツーリズム」の考え方は、地域づくりに必要であり、いわゆる関係人口を呼んでくる行為自体が実は「エコツーリズム」。そのためには「本物の暮らしでの受け入れ」が大事。交流人口のために無理をした「おもてなし」や「利便性」を追求する必要はなく、「地域の暮らし」をそのまま体験してもらえばいい。むしろ宮崎県だからこそ、という本物の魅力が残っているような受け入れを。
- JNTO（日本政府観光局）の統計によると、訪日外国人の旅のスタイルの多様化によって、団体ツアーや個人旅行パッケージよりも、個別手配で訪日する人が増えており、個人旅行者の消費額の方が高くなる傾向がある。また、訪日回数の増加と共に、一人当たりの旅行支出も、地方を訪れる割合も高くなる。旅の上級者になり、観光地ではなく、地域全体で消費活動を行う。コンビニを利用したり、夜行バスや空港で仮眠をとったり、友人を作り、再訪時には、友人の家に泊まる。農村民泊の初期のカタチである。これは海外だけではなく、国内でも同じ。個人の旅は多様化していて、観光統計には表れないことが多い。SNSで人と人が近くなり、人同士が繋がっていく。外国人が暮らしの中に入ってきている。これがVFR（Visiting Friends and Relatives、(Visit (訪ねる) Friends (知り合い等) & Relatives (親戚等)) であり、実は、統計的にも大切になってくる。
- 地域の人誇りを持って外国人にその地域の暮らしを見せる。訪れた外国人は日本の暮らしの中にある価値観を学び、同時に、受け入れた人たちも外国人の価値観を知る。それぞれの他文化の価値をお互いに認め合うことが、世界平和につながる。これから生まれてくる子孫に、日本の良さ、九州の良さ、そして宮崎の良さを残していきたい。